

## 国際交流活動

竹内 佑一\*

By Yuichi TAKEUCHI

IBSでは、①国土交通省が行う二国間協力や国際交流活動の支援、協力、②受託研究プロジェクト成果の海外への広報、③自主研究プロジェクトの一環としての独自の国際交流事業など、さまざまな形で国際交流活動を実施している。これらのうち、②についてはWCTR参加など本所報に既述し、また③は特集に掲載した。ここでは、①の活動として、2001年度に行われた、国土交通省都市・地域整備局と中国建設部、及び、同局とドイツ連邦教育科学省との二国間協力活動について紹介する。

### 都市計画、都市整備に関する日中交流会議

1998年1月、日本、中国両国の建設大臣により都市分野における交流を行う事が合意され、これに基づき1999年1月に第1回都市計画、都市整備に関する交流会議が中国江蘇省蘇州市において開催され、以後、毎年日本と中国交互に開催されている。

第4回は、2001年11月27日、東京において開催された。会議には、中国側から李先達中国建設部外事司司長を団長とする10名の代表団が来日した。日本側からは、澤井英一国土交通省都市・地域整備局局長をはじめ、同局担当の大臣官房審議官、技術審議官、同局各課長など、また政令指定都市の都市計画担当課長など多数が参加した。

代表団の事務次官表敬訪問の後、「21世紀の都市創造に向けた魅力的な都市拠点の形成」をテーマとした会議が行われた。午前中の全体会議では、中国側から李司長の「21世紀を目指す都市計画」、日本側から榎本晶夫国土交通省審議官による「21世紀に向けての都市再生」が報告された。引き続き、午後は、両国から合計9編の報告が行われた。

会議後、中国代表団は、27日から12月1日まで仙台市、札幌市を訪問し、両都市との交流と都市開発の現場視察を行った。これらは国際都市計画交流組織（INEX）が主催した。

### 日本—ドイツ連邦都市交通ワークショップ

日本—ドイツ連邦都市交通ワークショップ（日独WSと略）は、日独科学技術協定に基づき1992年に「都市における新しい交通システム」をテーマに旧建設省と旧ドイツ連邦研究技術省との間でこの分野の技術に関する情報交流を目的に設置された。1993年統一後の旧東ドイツ、ドレスデンにおいて第1回WSが、1995年に名古屋市において第2回が開催されたが、その後、日独両国における省庁再編などにより、中断していた。

その意義については従来から両国政府は認識しており、新しい体制となった日本国土交通省とドイツ連邦教育科学省とのあいだで、この間の環境の変化を踏まえて新たな枠組みについて合意がなされ、第3回が開催されることとなった。

第3回日独WSは、ドレスデンにおいて2001年10月23日～25日にかけて「持続可能なモビリティと都市発展」をテーマに日本側10名、ドイツ側12名により開催された。日本からは、国、自治体、関連団体による10名の代表団（団長 原田邦彦国土交通省大臣官房技術審議官）が参加した。

会議では、テーマに関する両国政府報告など全部で12編の発表が行われた。会議の結論として、日独共通の状況とアプローチがあること、持続可能性が現下の大きなテーマであること、交通と都市計画との連携を重視することなどがあげられ、今後の交流の継続と共同活動のためのプラットフォームづくりの必要性が確認された。そして、第4回を2003年仙台市で行う事が合意された。

\* 戦略開発研究グループ